内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2004年1月）

◎内海総局長から

インドは、同じアジアの大国でありながら、日本人にとっては、どうも遠い存在です。毎年おびただしい数の情報技術者を生み出し、世界の情報通信産業を、人材供給の面からも、ソフトウエアの生産の面からも、支えているという事実、さらに生産の側面だけではなく、消費の面からも、中国とほぼ同じ人口を持ち、マーケットは今、急成長をしています。しかも、英語使用という面から、世界各国との敷居が低いということは、大変な戦略的武器を持っているということです。「21世紀は中国の世紀ではなくインドの世紀だということを世界の人たちはもっと理解すべきである」と私に語った、インド商工会議所の職員の言葉が忘れられません。

◎1月の事務総局長の主な動向

1月7～8日　タイ王国公式訪問

昨年のサミットのイベントにご出席いただいたシリントーン王女との会談を主な目的としてタイ王国を公式訪問しました。シリントーン王女は、ICTを活用した社会開発に熱心で、タイ国内でいくつものプロジェクトを立ち上げています。ITUとして、可能な限りサポートをすることを約束してきました。

APT（アジア・太平洋電気通信共同体）も訪問し、旧知のナラヤン事務局長と会談しました。昨年採択されたWSIS行動計画を実施に移し、また、これに関連してアジア各国をサポートしていくことがAPTの重要な仕事になります。APTでは、今年7月にAPT設立25周年記念も兼ねつつICT大臣会合を開催するとのことですので、その際に再度タイを訪問することにしています。

1月9日　インド商工会議所主催会議への出席（ムンバイ、インド）

デジタル・デバイドをテーマにした国際会議がインド商工会議所主催で開催され、オープニングスピーチとして、WSIS宣言や行動計画などのサミットの結果を紹介するとともに、第2フェーズに向けた協力を呼び掛けてきました。会議には、インドの関係大臣らも出席し、デジタル・デバイド対策への関心の高さが表れていました。

1月21～23日　ITU電気通信開発アドバイザリグループ会合（TDAG、ジュネーブ）

ITU電気通信開発局（BDT）の主要な活動や財政事項について議論するITU電気通信開発アドバイザリグループを開催しました。WSIS直後の会議でもあり、また、BDTの使命は、まさしくデジタル・デバイド解消なのですから、WSIS行動計画の実施において、他の国際機関をリードしてBDTが動かなければならないことを強調しました。会議では、WSIS行動計画の実施に向けてITU、特にBDTの具体的な実施計画を引き続き議論していくこととなりました。

1月23日　外部コンサルタントの選定

昨年の理事会決議に基づいて、ITUの財政メカニズム、情報システム、予算の構成などを検討する外部コンサルタントの選定を行いました。選定に当たっては、理事国の専門家（Group of Specialist）などと十分に連携して、経験、コスト、作業方法、効率性などを総合的に判断しました。

ITUでは、15年前に外部コンサルタントを受け入れ、その後の組織改革につなげた経験があります。このときに比べると、今回は予算規模も小さく、検討時間も短くなっていますが、重要であることには変わりありません。外部コンサルタントの検討結果は、今年のITU理事会に報告されることとなっています。

1月30日　アナン国連事務総長との協議（ジュネーブ）

アナン国連事務総長からは、昨年のWSISについて、世界の注目を集める会議となり、また、宣言および行動計画という最終文書ををまとめることもでき成功だったとお褒めの言葉をいただきました。このWSISの結果により、デジタル・デバイド対策のための基金問題、インターネットガバナンス問題については、アナン事務総長のもとにそれぞれグループをつくり検討を続けることとなったことから、このグループの活動にITUがどのような協力ができるのかというのが主な話題となりました。ITUは、電気通信に関する国連専門機関として、デジタル・デバイド対策についてもインターネット関連事項についても、経験がありますし、専門能力も有していますので、積極的に貢献していくと、ITUの立場を説明しました。

今後、この2つのグループは、多くの政府、民間セクター、国際機関などから注目されながら、活動していくことになりそうです。

多様な人々が集うムンバイのインド門：撮影、内海善雄